

英語クラス 2月・3月は体験月間です

～4月から新サイクルに切り替わります。体験するなら今の時期がおすすめ
です～

英語基礎・英語 A・英語 B・英語 C のクラスでは、2月と3月に体験月間を行います。4月は新年度に切り替わるため、受講開始に最適なタイミングです。一度体験をして、コンテンツや講座の生の雰囲気を感じてみてください。基礎クラスからの進級やダブル受講も大歓迎です。皆さまのご参加を、お待ちしております。

【英語クラス講座紹介】

◇「英語基礎」とは？

英文法を全 46 項目に分け、中学 3 年分の学習要項全てを最速 1 年で学びます。塾長考案のオリジナルマーキングメソッドによって、「英語を読むのも書くのも早く正確になります。

① 文法～中学 3 年分の学習要項を丁寧に解説します。

塾長英文法の解説後、実際に理解できたかを確認するため、英作文に取り組みます。英作文は自分のスピードで解き進めることができ、分からなければ、塾長やアドバイザーにすぐに質問ができます。

② 口頭練習～九九のようにすらすらと言えるまで全速力で反復します。

学んだことが実際に口頭でも言えるように高等練習を行います。平叙文を「疑問文や否定文にする」などの英文法の基本例文を声に出して練習し、大きく伸びる「英語力の土台」をつくります。

③ 30 ワーズ～中学 3 年間で学ぶ必須単語 900 を組み合わせて暗唱します。

必須単語 900 を組み合わせてフレーズ化したものを、毎月 30 ずつ暗唱します。1 年のサイクル終了時には、360 フレーズ (900 単語) が身につきます。

【受講生様ご感想】

普段なら分からない英文も、○□△▽とマークを書くだけで、文の意味がすっきり分かりやすくなってびっくりです。これならどんなに文が長くなっても怖くないと思いました。まだまだ難しいところはいっぱいあるけど、学校の教科書にもマーキングをして慣れていきたいです。
(中学生 / 片山萌佳さま)

◇「英語 C」とは？

より豊かな「英文法力」と「英作文力」を身に付ける、「英語基礎」の応用クラスです。英文法について一番詳しく学ぶことができます。

① 文法～高校 3 年分相当の学習要項を丁寧に解説します。

英文法を全 46 項目に分け、高校 3 年分相当の学習要項全てを最速 1 年で学びます。英文法をただ暗記するのではなく、筋道の通った塾長解説でしっかり納得できるので、確実に記憶に残ります。解説後は理解できたかどうかを確認するために自分のスピードで英作文に取り組みます。

② 英作文～テキストを参考にしながら、チームで英作文に取り組みます。

連帯感と達成感を味わえるのみならず、仲間と試行錯誤を繰り返すことで、新たな発見があり、英文に触れることが楽しみになります。塾長、スタッフ、アドバイザーが一体となってサポートします。

③ 発音～わずか 12 の早口言葉を唱えるだけで、英語の全発音をマスター。

塾長の著書「1日5分 英語発音の筋トレ」を使い、わずか 12 の早口言葉を唱えるだけで英語の発音全てをマスターできます。

【受講生様ご感想】

チームで英作文では今日習った表現を実際に応用して作文を作ります。みんなで考えて、自分のパートだけではなく、チームでパーフェクトを取れた時はとっても嬉しいです。
(高校生 / 片島鏡花さま)

◇「英語 A」とは？

1つの映画を2か月(全8回。毎回1場面あたり約80語)にわたって徹底学習。1サイクルが終わるたびに、生の英語で楽しめる映画が一つずつ増えていきます。趣味で英語を学びたい方から、仕事に活かしたい方まで、学生・主婦・自営業を問わず、さまざまな方がともに学ぶクラスです。

① 文法力～通じる英語の土台、そして劇的な伸びのカギは、文法です。

「単語さえ並べれば何とかなる」は真っ赤なウソ。本にもなった塾長考案のマーキング法を使えば、誰でも3ヶ月で英文法を習得できます。効果的な方法で学べば、誰でも、いつ始めても、必ず伸びます。

② 例文力～映画だから、台詞の発話状況が見え、使える英語が身につきます。

「タイタニック」のような話題作から、「羊たちの沈黙」のような名作まで、映画監督でもある講師が厳選した映画から1場面に絞り込み、毎週徹底的に学習。言葉の発話状況がわかるので、英語を学び始めたばかりの方にも取り組みやすく、物語の展開を楽しみながら学ぶことができます。

③ センス～本当にできる人から盗むのが一番です。

日本人が英語を身に付ける最短コースは、「ネイティブ」からではなく「ネイティブ並みに英語の分かる日本人」から学ぶことです。英語関連書籍を約20冊出版している本校の塾長が講師を務めます。

【受講生様ご感想】

私が思う「英語A」の一番の魅力は、やはり生きた英語を学べることだと思います。私はいま大学で英語を専攻していて、たくさん英語を話す機会があります。台詞の暗唱をしていたおかげで、発音にとっても自信を持って話すことができている。おやびんに英語を習うのなら、絶対に「英語A」がいいです！初めて授業を受けたとき、最初は全く聴き取れなくて意味も分からなかったけれど、授業の最後に改めて映画を観たら、英語が自然と耳に入ってきて理解ができて、とても驚いたと共に感動しました。(月田温子さま/大学生)

◇「英語 B」とは？

目指すのは「日本人にしては上手い」でも「ネイティブ並み」でもなく、更にその上。日本語を読むように英語をすらすらと読みこなし、日本語で話すように自分らしい言葉で英語を話すことを目標に、速読・翻訳、ディベートの二本柱を徹底的に磨き、「読解力」「対話力」を身に付ける講座です。

① 読解力 ～速読・翻訳を積み重ねることで、長文読解も怖くありません。

「語数÷3秒」の速度を目標に約300語のテキストを速読。理解確認の問題にも取り組むため、流し読みではなく正確に内容を理解する「読解力」が身につきます。グループで各人がホワイトボードを利用して翻訳。その後解説を行うため、文法や単語のポイントがより記憶に残ります。原文を読むからこそ、生き生きとした表現やおもしろさを味わえ、ますます英語を学びたくなります。

② 対話力 ～ディベートの基本を丁寧に解説。「論破」ではなく、いかに「対話」するか。

語学を学ぶおもしろさの真髄は、コミュニケーション。学んだ英語知識を活かす実践の場となるため、講座を共に学ぶ仲間やネイティブとの会話を日本語と同じように楽しめる力が身につきます。どんな議論にも柔軟に対応できる力が備わり、表面的な「会話」を超えた深い「対話」ができるようになります。また、ここで身につけた「対話力」は、ディベートだけでなく、仕事や日常生活にも生かせるスキルです。

【受講生様ご感想】

私は英語の長文翻訳が苦手なのでこのクラスを受講し始めました。受講してみると、知っている単語なのに物語の流れと関連づけられないことや、基本的なことが抜け落ちている、などと改めて感じ、学ぶことがたくさんあります。またディベートは、受講したての頃は話の展開についていけなかったけれど、今では大体の話の流れはつかめるようになりました。模試などのリスニングが、とても簡単に聞き取れるようになりました。

(木上実乃里さま/高校生)

※各講座の体験申し込みについては、別紙申込用紙にご記入の上、スタッフにご提出ください。